



丸く盛り上がった橋を渡って総本山善通寺の西院境内に入ります。



弘法大師空海も渡った

らくよう 洛陽の都の橋を再現

総本山善通寺の西側を流れる弘田川に架かる橋です。善通寺の駐車場からは、この橋を渡って西院に入ります。昭和53(1978)年、弘田川の改修工事に合わせて架け替えられました。

その際、中国の天津橋を模して石のアーチ橋としました。天津橋は607年、隋の煬帝が洛陽城を築いた際、正面に流れる洛水を天の川に見立てて「天津」と名づけたといわれてい

ます。東洋最古の石のアーチ橋で、その形から「天津暁月」とも呼ばれ、空海も渡ったといわれています。「濟」の字には「渡す」という意味と「救う」という意味があります。世を救うことを決心した空海が渡った橋を再現しています。

橋の欄干には、密教の布教に貢献した空海を含む真言八祖の名号を表す種子(梵字)が刻まれています。